



●実技授業の様子(上)。

© ONODERA USER RUN

●航空分野、日本語授業
(座学)の様子(右)。



●航空機整備授業
の様子(左)。

© ONODERA USER RUN

OUR 社初の特定技能人材「航空分野・航空機整備」で国内 2 社に内定

8月2日、(株) ONODERA USER RUN (以下 OUR 社、<https://www.onodera-group.jp/>) 発表。外国人教育事業や人材紹介事業等を行う同社は、OUR 社フィリピンアカデミー輩出の特定技能人材が、航空大手 2 社の航空機整備事業を担うグループ企業である(株) JAL エンジニアリング(以下 JALEC) および ANA ベースメンテナンステクニクス(株)(以下 ANABTC) に採用が内定したことを明らかにした。

OUR 社 特定技能人材 10 名(JALEC 5 名・ANABTC 5 名)は、年内の就労開始を予定。

● OUR で初となる「航空機整備」特定技能人材

特定技能「航空分野・航空機整備」の試験は、実技試験の他に、多くの航空専門用語の習得が必要でもあることから、特に難易度が高いとされ、OUR 社では、専門教育においては就業先企業の協力を受けたカリキュラムを取り入れ、本年 6 月、「航空分野・航空機整備」において同社初の 10 名の合格者を OUR 社フィリピンアカデミーから輩出し

た。日本入国までの間は、来日準備教育による専門分野および日本語の復習や、日本事情研修等を通し、日本での就業開始に向けた最終準備中。

●航空機整備人材マッチングの経緯

航空業界は、インバウンドのV字回復等による航空需要増加への対応として、航空整備士をはじめとする人材確保の取り組みを推進中。採用者数は回復傾向にあるが、高齢化等による退職者数の増加への対応が課題となっている。人命に関わる業務であることの深い認識、空港内での作業制約の理解、航空機や工具を用いて作業を行う一定の専門性・技能・知識を有する外国人を受け入れることが必要不可欠とされる。

同課題を抱え人材確保を進める、航空機整備を担う JALEC や ANABTC の需要に応えるため、OUR 社は前記 2 社の協力体制のもと専門教育の監修を受け、航空機整備分野の要員として高いレベルのフィリピン人材を育成してきた。また、多くの専門用語の習得も必要なことから、日本語教育の学習期間を他分野よりも 2 か月長く設定することで日本語能力試験 N3 レベルへ到達させる等により今採用が実現した。